

〔中学校〕今年度、特に良かった取組(具体的な取組例)

迅速な事実確認・情報共有、組織的な対応について【12校】

- ・本年度は学年をまたいだ事案も多かったが、迅速に情報交換から対応につなげることができた。
- ・学級担任、発見者→学年生徒指導・学年主任→生徒指導主事、管理職への連絡等迅速に行われており、対応がスムーズにできている。(6校)
- ・校内生徒指導委員会を週に1回開催し、こまめな情報交換ができた。いじめと認知(トラブルも含む)したものについては、生徒指導部を中心に、すぐに管理職に報告が上がる風土が構築されている。
- ・教職員で、日頃から生徒や保護者の様子について情報交換し、共有することで話しやすい環境ができている。
- ・いじめを認知した際には、校内のいじめ防止対策委員会を中心に、迅速かつ組織的に対応ができた。
- ・学年部や学校全体で情報を共有し、知りえた情報をもとに迅速な対応を行うことができた。疑問点を残さぬよう細かに聞き取りを行った。
- ・ワンペーパーを活用し、管理職への報・連・相を行い、学年部で組織的に対応することができた。

アンケートQUや生活アンケート・教育相談等によるいじめの早期発見・早期対応について【10校】

- ・アンケートQUを活用し、生徒の情報、いじめについて早期に対応できた。(3校)
- ・ネガティブチェックを、とにかくその日のうちに行うように、習慣づけられたことはとても良かった。クラスの関係性を知ることはいじめの早期発見に役立てることができた。
- ・アンケートQUの項目を絞っての声かけは、とても効果があった。教育相談前の「学校生活を振り返って」によるアンケート調査も、その後の相談で詳細を把握しやすく、一定の効果が得られた。
- ・アンケートQU実施直後にチェックする項目を、生徒指導主事を中心に共通理解し、早期発見・早期対応に努めた。アンケート結果への対応を即時に行うことができた。
- ・アンケートを行事予定に組み込み、毎月、または毎学期実行し、日常の生徒指導に生かした。(3校)
- ・定期的に行う教育相談やQUアンケートにより、問題を抱える生徒に話を聞いたり、話の中から問題を発見して対応したりできた。相談する教員を生徒が選べるのも良かった。

日常の観察、教育相談等による児童の不安や悩みの解消について【6校】

- ・教育相談や実践ノートだけではなく、生徒との日常会話の中からも気になることがあった場合は迅速に対応することができた。
- ・情報共有を迅速に行い、生徒の気持ちに寄り添った対応が取れたこと
- ・小規模校の利点を生かし、学年部の枠を超えて生徒の様子を共有することができた。授業担当者が、日頃から生徒の変化を見取り、小さなことでも気になればすぐに対応する雰囲気ができている。
- ・毎日の引継ぎで、生徒一人一人の生活の様子を伝える場があり、情報の共有が図れた。
- ・生徒や保護者からの悩みなどを丁寧に聞き取り、背景や理由などを生徒の目線で聞くことができた。
- ・校内研修や日々のいじめ事案報告により、いじめられた生徒を守ることに認識を強くもつことができ、カウンセリングマインドをもって対応することができた。

「いじめは絶対に許されない」という共通認識をもった取組について【6校】

- ・年度当初に学校の方針を示し、共通認識をもっていじめの対応にあたることができた。
- ・日常の生徒の様子から何か気になる点を教員で情報共有していること。週1回の生徒指導の窓での共有、共通理解を行っている。
- ・いじめは絶対に許されないという意識をもち、生徒・保護者の話を聞き、学校全体で取り組めた。
- ・学年部を中心に情報交換が密に行われている。定期的な学年会で情報共有している。
- ・年度当初にいじめについての共通理解の職員会議を行った。また、生徒会が中心となって、年間を通して人権を大切にすることの呼びかけを行い、人権集会も実施した。
- ・日々の対応や指導、報告等の積み重ねにより、全教職員がいじめが許されないという認識で指導にあたれた。

児童生徒や保護者が相談しやすい関係や環境づくりについて【4校】

- ・生徒一人一人が自分事として考える場面を意図的に作り、考える時間を増やした。家庭と密に連携を取り、学校ができる対応を素早く行った。
- ・絶えず情報共有を図り、学級・学年・部活動が連携し、組織的に対応することが出来た。
- ・早期に保護者に連絡し、信頼関係を築くように心がけた。必要に応じて継続的・定期的に連絡をとった。
- ・養護教諭が保健室に来室した生徒へ「何かあったらいつでもおいでね。」という言葉かけを必ず行うことで、生徒が相談しやすい保健室運営を行うことができた。生徒の学校生活での問題点を改善するために、生徒の思いや考えを吸い上げて話し合いの場を設け、改善策などを計画する取組を行った。

その他の意見等

- ・管理職にも入ってもらい、情報共有をスムーズにできた。
- ・定期的に行われる「ミニ研修」により、意識を高めることができた。いじめの認知後、学年部教員やCSTの先生との情報共有を行い、生徒の見守りを組織的に行った。
- ・生徒指導の窓を中心に常に情報提供をしながら対応できた。教職員同士で話しやすい雰囲気があった。毎週行われている生指の窓での情報交換、対応や方針の協議。
- ・いじめに関する校内研修を実施した。いじめ問題への課題意識を高め、日々の対応にいかすことができた。
- ・人権週間で自分たちのいじめ等の人権課題を考え、人権意識を高めることができた。

- ・早期対応が前提ではあるが、かならず集会を開き、事実を伝え、さらにそれについて各自振り返りをさせ、さらにその振り返りを学年生徒全員で共有する場をもつことができた。
- ・道徳の授業などでいじめについて考えさせることができた。

〔 高等学校 〕 今年度、特に良かった取組(具体的な取組例)

- ・アンケート等をもとにした初期対応といじめ防止委員会等の連携がとれていた。ほんの小さな異変に関することも連絡・報告を欠かさず迅速に対応してもらった。いじめ防止委員会や対策委員会が機能していた。
- ・個人面談の機会を多く設けた。女子帳で気になる記述があれば声をかけた。保健室で相談しやすい環境作りにつとめた。
- ・生徒指導提要に関する研修に参加して、詳しい話を聞くことができた。